

『卓球の歴史』

1800 年代後半

インド…遊戯として行われていたゴッシマテニス

イギリス…雨天時の暇つぶしとして行われた卓上でのテニス

卓球の発祥の地はインドだという説も現時点で有力な説のようだが、その根拠となるのが「ゴッシマテニス」の存在だ。これは屋内で行われていた遊戯で、テーブルの中央をネットで

仕切り、セルロイド製ボールをラケットで打ち合って得点を競い合うものであった。このゴッシマテニスはいつの頃から行われていて、どういう経緯で生まれたのかの記述は残っていない。ただ、1880 年代にイギリスに伝わった、というのは有力な情報のようである。当初は貴族の遊びとして行われていたが、次第に現在の卓球に近い形へ変わっていくことになったというインド発祥説。

19 世紀後半、イギリスでは国民的競技として、テニスが盛んに行われていた。にわか雨の降る日が多い気候のイギリスでは、しばしばその度に小休止するということになる。その雨が上がるまでの暇つぶしとして、屋内で卓上でテニスのボールを葉巻の箱の蓋で打ち合っていたという。これがまさしく「テーブルテニス」と呼ばれるようになり、しだいにテーブルテニス用のボールやラケットが作られるようになっていったというイギリス発祥説。

イギリスでは、インドのゴッシマテニスの伝来が起源だとする説と、テニスのプレイヤーが雨の間にやむを得ず屋内の卓上でテニスをしたものが卓球へと派生したという説の 2 つが混在している。

どちらも時期的には近いので、おそらくどちらかが正しいというものではなく、どちらも正しいと考えておくのがいいのだろう。

卓球が日本へ伝わったのは、1902 年に東京高等師範学校教授の坪井玄道(かねみち)によって、イギリス留学から日本へ帰ってくる際に、ルールブックとラケット、ボールを 10 セット持ち帰ったのがきっかけだとされている。

その後 1938 年に初めて日本で国際大会が開催された。1952 年の第 19 回世界選手権大会では、初めて日本選手が国際舞台に登場し、男子シングルス・男子ダブルス・女子団体・女子ダブルスの計 4 種目に優勝するという鮮烈なデビューとなった。

1954 年の世界選手権大会では、男女共に団体優勝、さらに男子シングルスでも優勝を飾り、その後 10 年間は「卓球王国日本」として華々しい活躍を見せた。その後 1961 年大会のころから中国勢が登場し、現在も卓球王国の覇権(はけん)を中国が握っているというは、皆さんご存知の通りだ。ただ、五輪採用は以外に最近 1988 年の韓国オリンピックからです。

いずれにせよ、私達が日頃楽しんでいる卓球というものが、遥か昔から行われてきた非常に歴史の深い競技であるということは紛れもない事実です。

